

評価項目	評価	コメント
<p>1. 意識改革と組織体制の充実</p> <p>(1)借受希望者を訪問し営農計画を聴取する、集落に入り事業説明を行う、担い手農業者などと定期的に意見交換を行うなど機構から働きかけを行ったか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>組織体制の充実について年々努力しており評価する。 今年度、南丹市園部町において現地見学会という新たな取組みを実施し、評価する。</p>
<p>(2)現地で取り組む職員(現地駐在員、集積コーディネーター)体制を充実させるとともに、研修などでスキルアップを図ることができたか。</p>	<p>A</p> <p>(B)</p> <p>C</p>	<p>市町村に設置される市町村コーディネーターなどの一層の人的な拡充が必要。 今後、農業委員会農地利用最適化推進委員等との連携が大切。</p>
<p>2. 話し合いの促進による出し手の掘起こし</p> <p>(1)府・市町村と連携し、京力農場プランの作成・見直しの中で、農地をまとめて機構に預けるよう集落に対し働きかけるなど農地の出し手の掘起こしを行ったか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>地域での話し合い等に何回も足を運び、京力農場プランと農地中間管理事業を連携推進していることを評価する。 機構として、今後とも、出し手への働きかけを一層強化する必要がある一方、受け手の方が機構と連携・協力して出し手の掘起こしを行うことも必要。 連携協定を結んだことにより、事業毎に集落の状況を分析し、焦点を絞って、PRや事業推進することが大切。</p>
<p>3. 機構のPRと農地所有者への喚起</p> <p>(1)機構は知事が指定した公的機関であり、責任を持って農地を管理し、使用料は確実に支払うなど事業のメリットを農地所有者に訴える取組みを行ったか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>JA広報誌へのチラシ折り込み等農地所有者に訴える取組みを行っている。 出し手へのさらなる周知が課題。</p>
<p>4. 他事業・機関との連携</p> <p>(1)集落の状況を踏まえ、中間管理事業と農地耕作条件改善事業などを併せて実施するなど課題解決につながる提案をするため、他事業所管部局と連携して取り組むことができたか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>全国に先駆けて土地改良事業団体連合会等と連携協定を結んだ。連携協定に基づく取組をさらに進めてほしい。</p>
<p>5. 29年度の取組み</p> <p>(1)28年度の取組み結果を踏まえた上で、29年度の取組み方針を策定することができたか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>出し手も受け手も高齢化しているなか、出し手が安心して出せる、受け手が安心して受けることができるよう制度改善に取り組んでおり評価する。 今後一層高齢化が進むなか、個人ではなく組織(集落営農等)で対応していく議論が必要。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>(B)</p> <p>C</p>	<p>組織体制の充実、制度改善等に取り組んでいる。しかし、目標1,000haに対して集積の数字が伸びなかったためBとする。</p>

A: 目標を達成している

B: 目標を概ね達成している

C: 目標どおり出来ていない